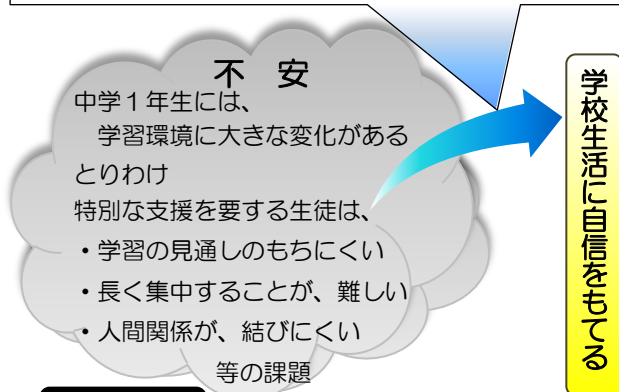
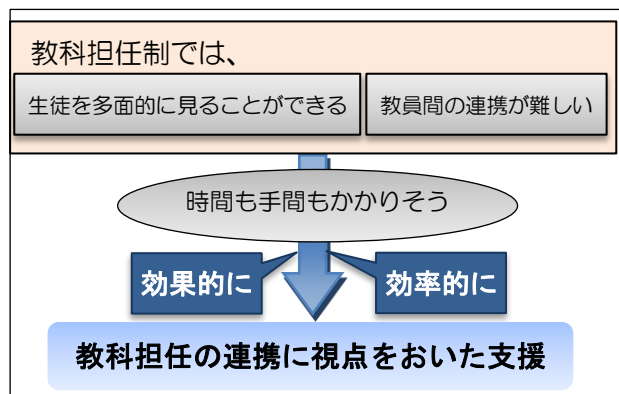


教科担任制を生かした特別な支援の在り方

－ 中学校通常の学級における連携の効果的な活用－

研究員 野村 裕子

◆ 研究にあたって

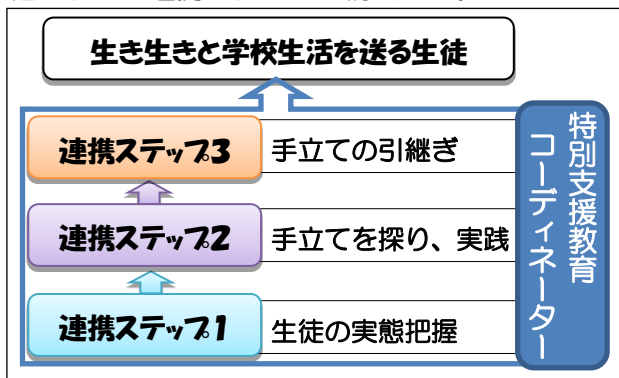


研究の目標

特別な支援を要する生徒が生き生きと学校生活を送れるよう、教科担任制の良さを生かした複数の教員の連携を効果的に活用し、支援の在り方を探る。

◆◆ 研究の内容

本研究では、教科担任の連携に視点を置き、実態把握、計画、実践、評価を経て、手だてを引き継ぐまでの連携ステップを構成した。



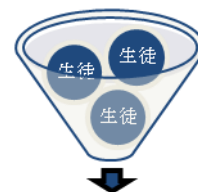
連携ステップ1

生徒の実態把握

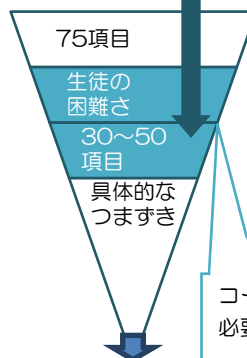
○小学校の見たてや支援に加え、中学校入学後の様子を基にチェックする。

「フルチェック」

学級担任が、支援の必要度が特に高い生徒を抽出するためのチェック



支援の必要度が特に高い生徒



「ファストチェック」

各教科担任が、抽出された生徒を、その生徒の困難さによって絞った項目で具体的に実施するチェック

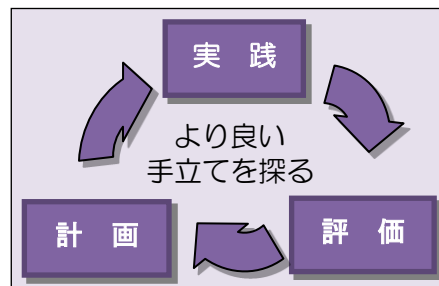
コーディネーターが、必要な項目を選びシートを準備する。

抽出した生徒の実態

連携ステップ2

手立てを探り、実践

○生徒に関わる教科担任が情報を交流し、計画、実践、評価する。



「気付きカード」

短期間に集中して、授業中の様子を観察し、抽出された生徒の伸ばしていきたい姿や課題となることを、各教科担任が具体的に記入するカード

計画

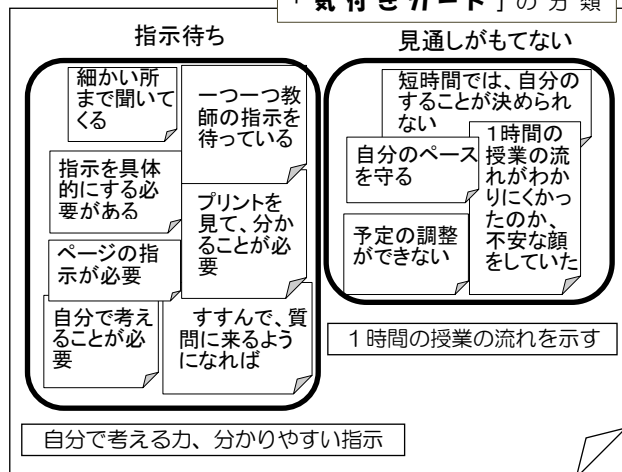
生徒の情報を共有し、個に応じた指導の手立てを検討する。

ケース検討会議

授業場面の映像を活用し、「**気付きカード**」を使い、個に応じた指導の手立てを検討して、計画を立てる会議



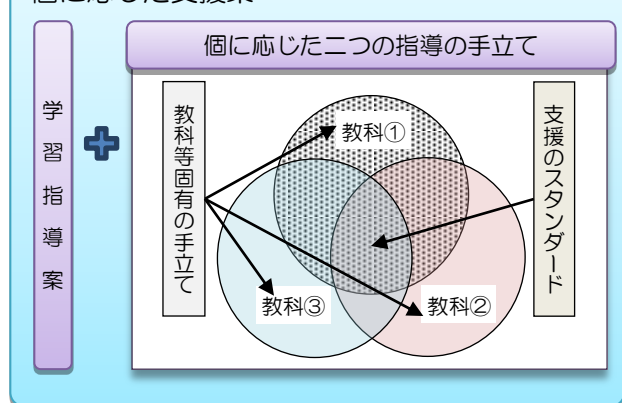
「**気付きカード**」の分類



実践

生徒に関わる教科担任が、個に応じた指導の手立てを実践する。

個に応じた支援案



授業中盤の活動に必要な単語のヒントになるカードをはっておく。



授業の流れをはっておく。

フラッシュカードで単語を確認する。

評価

生徒に関わる教科担任が、実践した個に応じた指導の手立ての有効性を評価する。

「参観カード」

日常の授業で、参観するポイントを参観者に分かりやすく示し、個に応じた指導の手立ての有効性を評価するカード

生徒の変容

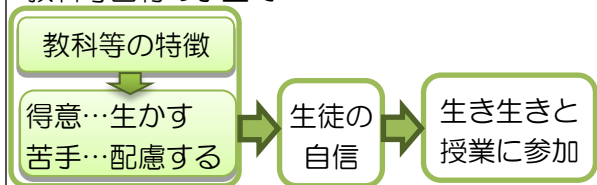
どの教科でも、テーマとその時間の流れを示すようにしたところ、見通しをもって授業に集中する姿が見られるようになった。

生徒の得意なことを認めたことで、進んで発表する機会が増え、にこやかに安心した表情をすることも増えた。

連携ステップ3

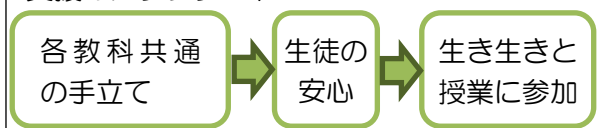
手立ての引継ぎ

教科等固有の手立て



○教科担任から新教科担任へと、実践した教科等固有の手立てを確実に引き継ぐ。

支援のスタンダード



○コーディネーターが、支援のスタンダードを整理しまとめて引き継ぐ。

◆◆◆ 成果と課題

1 成果

- 共通のチェックシートとカードを用いることで、具体的で効率的な情報共有が図れた。
- 教員相互の連携ステップにより、教科担任の指導の手立てに対する意識が高まり、特別な支援を要する生徒が、生き生きと学習に参加できるようになった。

2 課題

- 個に応じた指導の手立ての実践例を蓄積するとともに、様々な事例に対応できる連携の在り方を探る必要がある。